

2009年10月7日

## 開頭しない「iNPH」のシャント術など紹介 (ジョンソン・エンド・ジョンソン)

---

さまざまな診療領域の最新医療機器や医療関連製品などを扱うジョンソン・エンド・ジョンソン(本社=東京都千代田区)は10月6日、記者向けの説明会を開き、開頭することなく「特発性正常圧水頭症」(iNPH)の治療ができるシャント術「腰椎-腹腔シャント」(L-Pシャント)などを紹介した。

iNPHは、歩行障害や精神活動の低下、尿失禁の症状があり、髄液循環障害に起因する脳室の拡大が認められる病態。

同社によれば、最近の調査で国内の約31万人が罹患している可能性があるという。

説明会では、過剰分泌された髄液を排出するiNPHの治療法として、脳室-腹腔シャント(V-Pシャント)、脳室-心房シャント(V-Aシャント)、L-Pシャントの3シャント術を紹介した。いずれも保険適用済み。

L-Pシャントは、腰椎と腹腔を結ぶことで脳室に過剰に流出される脳脊髄液をコントロールする仕組み。開頭手術ではないため低侵襲で、患者のQOL向上が期待できるという。担当者は「現在、iNPHのシャント術の中で、実施状況はV-Pが6割、L-Pが4割なので、より低侵襲なL-Pが広がればよいと思う」と話している

=CB ニュース =